

令和7年度ひろしま自然保育推進事業 活動報告書

令和8年 3月 31日

団体所在地 江田島市江田島町中央4丁目18番25号

団体の名称 江田島市

職・氏名 園長 菅原 里枝

(施設名 認定こども園えたじま)

1 活動報告

【4月～6月】(春季)

(活動内容)

- ・海の活動(ビーチコーミング・カニを見つける)
- ・タケノコ探し、タケノコの皮むき
- ・人参の栽培、収穫
- ・夏野菜の苗植え
- ・ひまわり、アサガオの種植え
- ・サツマイモの苗植え
- ・竹の採取

【7月～9月】(夏季)

(活動内容)

- ・海の活動(ビーチコーミング・ビーチクリーン)
- ・貝殻や竹を使用したマルシェごっこの商品作り(万華鏡やキーホルダーなど)
- ・夏野菜の収穫
- ・イカダづくり(竹を切る→組み立てる→ひもで結ぶ→ペットボトルで浮を作る→旗、釣り竿、舵を作る)

【10月～12月】(秋季)

(活動内容)

- ・イカダの進水式
- ・海ごみを使用した海ごみ妖怪作り
- ・さとうみ科学館への遠足
- ・サツマイモ掘り、おいもクッキング
- ・オリーブの収穫
- ・オイスターファクトリー見学
- ・チューリップの球根を植える

【1月～3月】(冬季)

(活動内容)

- ・海の活動(ビーチコーミング・ビーチクリーン)
- ・陶芸教室
- ・凧あげ
- ・氷づくり
- ・雪あそび
- ・春探しの散歩

活動報告（詳細）

【4月～6月】

（写真）



（エピソード記述）

■活動プロセス

- ・見つけた物を入れるケースの準備をする。
- ・さとうみ科学館の方々から江田島の海で見られる生き物の紹介や海の危険な生き物の注意点などを教えてもらう。

■保育者の関わり

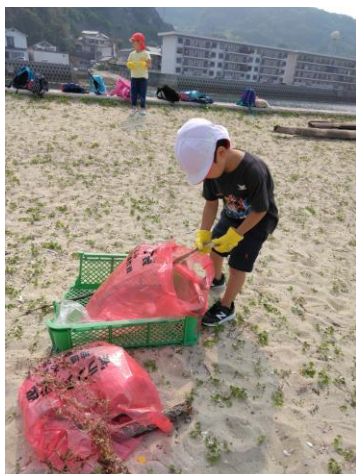
- ・一緒に生き物を探す。
- ・子どもの発見に共感し、周囲の子どもに知らせる。

■子どもの育ちの見取り

- ・友だち同士で捕まえたカニを見せ合う。そのなかで、「自分もみつきたい」という気持ちになり、さらに一生懸命探し始めた。カニが隠れていそうな場所を教えてもらい、自分たちで考えながら探した。
- ・マテ貝が横になって穴から飛び出していることを発見し、「マテ貝が横になってる！」と驚き周りの友だちに知らせる。その様子を友だちとじっくり観察して自分の考えや思いを伝え合った。

【7月～9月】

（写真）



（エピソード記述）

■活動プロセス

- ・海が汚れていることに気付いたこどもが友だちや保育士にそのことを知らせる。
- ・みんなで海に散歩に行つてごみの多さに気付き、みんなでビーチクリーンを始めた。

■保育者の関わり

- ・一緒にビーチクリーンを行った。
- ・拾ったごみを仕分けができるよう声掛けを行った。
- ・ごみが生物に影響を与えることを絵本で知らせた。

■子どもの育ちの見取り

- ・「お菓子のごみがあった！」と気づいた友だちに、「なんでこんなところにあるんかね？」と海にあるはずのないごみに不思議さを感じていた。
- ・降園後などに保護者と一緒に海に行き、一緒にビーチクリーンを行う子が増えた。
- ・『うみごみマリン』という絵本を見たことで「このごみマリンが食べたら大変じゃけん」と自ら積極的にごみを集めるようになった。

【10月～12月】

(写真)



(エピソード記述)

■活動のプロセス

・春の散歩でタケノコを見つけ、そこから竹になる様子を観察し、こどもたちと一緒に竹を切ってみる。

・散歩で見た牡蠣イカダのように竹を組み合わせてイカダを作ってみる。

■保育者の関わり

・採取した竹を組み合わせるなどして一緒に遊ぶ。

・どうやったらイカダが海に浮かぶかを考えられるよう話し合いの場を設ける。

■子どもの育ちの見取り

・竹と竹を「ボンドでくっつけよう」と案が出てやってみるがくっつかなかった。そこで「ひもがいいんじゃない」と別の方法を考え出し、自分たちで試してみた。

・ペットボトルの浮作りで「これじゃ足りないかも」と気づき、「もっとペットボトルを取ってこよう」と友だちと協力してペットボトルを用意した。

【1月～3月】

(写真)



(エピソード記述)

■活動のプロセス

・翌日の天気や気温を知り、寒くなることを知る。氷ができるかもしれないと気づき、みんなでやってみようという声があがる

・自分で氷づくりの入れ物を選んで水を入れ、好きな場所に置いて翌日の朝観察した。

■保育者の関わり

・自分で水の量や置く場所を考えられるように見守る。

・子どもの発見に共感し、周囲の子どもに知らせる。

■子どもの育ちの見取り

・氷づくりの翌日、一つだけしか凍っていなかった。「なんで〇〇ちゃんのだけ凍ったんじやろ?」「風が当たったけんじゃない?」「水の量かもしれん」と友だち同士で考え、風が当たる場所にカップを移動させたり、水の量を減らしたりして試してみた。

2 その他（自然体験活動の実施における今年度のプロセス）※記入必須

- ・ 職員の資質向上について

散歩コースを地図上に書き込み、自然物がある場所を職員間で共有したりした。

定期的に会議を開いて各クラスの自然活動の様子を伝え合い、次の目標や課題について話し合った。

一般社団法人フウドで開かれた海のごみ問題の研修に何度か参加し、参加者と意見を交換したり話し合ったりして、海のごみ問題について理解を深めた。

- ・ 地域との関わりについて

専門知識のあるさとうみ科学館の指導員さんに来てもらい、海の生き物の事や、カニの捕まえ方を教えてもらった。

地域の方にサツマイモの苗の植え方や収穫の仕方を教えてもらった。

10月のバス遠足でさとうみ科学館に行き、江田島の海の生き物について教えてもらった。

イカダ作りの様子を県知事に見てもらった。

地域の方と一緒にビーチクリーンを行った。

一般社団法人フウドの方に来てもらい、ビーチクリーンの活動やごみを減らしていくことの大切さを教えてもらい、海のごみを使用した海ごみ妖怪を一緒に作った。

オーシャンポイント株式会社が運営するオイスターファクトリーを見学し、牡蠣の収穫の様子や牡蠣の仕分けの様子を教えてもらう

収穫したオリーブを地域の方に抽出してもらいオリーブオイルにもらった。

- ・ 保護者との関わりについて

月に1度「しぜんだより」を作成し、自然活動を見てもらえるよう玄関に掲示した。

カキ殻を使った釉薬で作った作品を展示し、保護者に見てもらった。

イカダ作りのプロセスをドキュメンテーションにして玄関に掲示した。

イカダ作りの様子を保護者に見学してもらい、活動の様子を知ってもらった。

イカダの進水式をテレビ撮影してもらったことを知らせ、保護者に見てもらった。

製作した海ごみ妖怪を玄関に飾り、保護者に見てもらった

保育参観時に海で収集して作った作品やこどもたちが描いた魚の絵を展示したり、海の活動をスライドショーにしたりして保護者に見てもらった。

- ・ その他

※より詳しく活動をアピールしたい施設は、ホームページやSNSのURLをご記入ください。

URL	
-----	--